

テント一週一文 (あ) —— 「3.21 さようなら原発全国集会」での川内原発行政訴訟ブースの案内

(承前)

九電本店前のテントでは、農業をしている男性 (以下「男」)、「男」のタブレットを使っている女性 (以下「タ」)、今さっきこのテントに来た女性 (以下「今」)、指圧指南書を見ていた女性 (以下「指」) の会話が再開されます。

タ: 2月28日の裁判の後で開かれた報告集会で、広島高裁の判決のことが話題になったんですって?

指: そうらしいわね。

今: 弁護士さんたちは諸手を挙げて判決賛成って言うわけじゃなかったのよ。

タ + 指: どんな点で?

今: …… 何ででしたっけ? 急に言われると思ひ出さないわ、そうね……

と云いよどんで、会話が途切れます。

以前女性二人に話の腰を折られてからほとんど口を挟まず、今も2月28日に行われた川内原発行政訴訟の傍聴記をめぐる女性三名の会話を聞いていた男性に、やっと、自分の意見を人に聞いてもらえる機会が訪れました。「2月28日の様子は分かりませんが、『世界』っていう雑誌に甫守さんという弁護士さんが書いていますよ」。

タ: 何月号?

男: 2月号です。

指: 甫守さんという、川内原発行政訴訟の原告側代理人じゃない?

今: そうよ。2月28日は来ていなかったけど、それまでは毎回来ていて、原告側では一番発言の多い弁護士さんよ。ということは、準備書面もたくさん書いているわね。

「タ」は「それでなんて書いてあるの? 」とせっかちです。男性は、自分の発言が途中でさえぎられなかつただけでなく、フォローさえされたので「ちょっと待ってくださいね」とバッグから『世界』2月号を取り出します。

タ: あなたは『世界』を持って歩いているの?

男: 今日はたまたま持っていたのですよ。あっ、ここですね。

「指」も「あなたはもう読んだのでしょうか。内容をまとめて教えて」と、男性に言います。

男: 甫守さんは広島高裁の判決を高く評価しているのですよ。例えばですね、僕の言葉で話すとは、福岡高裁宮崎支部は原子力規制委員会の火山ガイドには合理性はあるんだけど、原発が稼働中にとんでもない火山の爆発や地震が起こると分らない限り原発を止める必要はない、と言ったんですよ。

タ: 福岡高裁はそう述べているわけね。

男: 甫守論文を僕の理解した範囲で言えば、ですよ。

指: あなたの言うことは二段も三段も間接的な感じがするわ。

男: そうなんです。判決文が難しいでしょう。それを解説したり、褒めたり、批判したりしているのも弁護士さんでしょう。これも、私にはね、難しいんですよ。

今: 福岡高裁宮崎支部の判決の言い分は、というよりも、あなたの解釈は分ったわ。それで広島判決はどうなの?

男：この福岡高裁の考え方が広島地裁や松山地裁で採用されていた、言わば踏襲されていたのですって。それに対して、この考え方は妥当ではないと判断したのが広島高裁判決であり、評価すべき点だそうです。

タ：それで？

男：僕が今言ったのは、甫守論文 8 ページのうちの 1 ページの 3 分の 1 ほどですから、この論文にはまだまだ多くのことが書かれているのですが、広島高裁判決を評価している点を一つ挙げましたので、批判している点を一つだけ挙げますとですね…

タ + 指：フム、フム。

男：この判決は形式論理に流れすぎている、と言っています。

今：形式論理？ あなたも判決や甫守論文と同じように難しいことを言うのね。

男：そうとしか言えないのですよ、僕も。広島高裁判決も、条文や報告書や論告などの字面から判断していて、原告が抱えている具体的な不安に踏み込んではいない感じがするってということじゃないかと思うのですが。

タ：原発の裁判はたくさん提訴されているのだから、被害者や避難者の具体的な不安や困難に踏み込んで考えてくれる裁判官が早く生まれてほしいわね。そうなった時に多くの方は心の底から「司法は生きている」って叫ぶのじゃないかしら。

「男」は誰に聞くでもなく「もう一つ申し上げてもいいですか」と数枚の紙を広げて見せます。

「指」も「タ」も「今」も「男」に「いいわよ」と鷹揚に穏やかに反応します。

男：皆さんは、小林さんの 2 月 28 日の裁判の傍聴記は先ほど読まれましたよね。その小林さんが、3 月 21 日東京の代々木公園で開かれる「3.21 さようなら原発全国集会」で川内原発行政訴訟のブースを開設するのですよ。

タ：すごいわね。

男：その企画書と案内がこれなのです。当日参加される方がいらっしゃったら、是非ともこのブースに寄っていただきたいのですよ。

タ+今+指：そうね、川内原発行政訴訟のことを広く知ってもらいたいですものね。

と、3 名で 2 枚の紙を回し読みしながらテントでは静かな午後の時間が流れていきました。

(文責 栗山次郎)

2018 年 3 月 19 日公開

参照：「さようなら原発全国集会」でのブース開設企画案、および参加される方々への案内文

http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/180319kobayashi.pdf